

波田小学校 子どもも先生も「やってみたいことに挑戦できる」学校に！

★ まずは「目の前の子どもの理解」から

パイオニア校として「多様性を受容する学校づくり」に取り組んできた波田小学校。多様性を受容するためには、まず、目の前の子どもを理解しようとする教師のマインドセットが必要だと考え、今年度も一昨年の日課変更で生み出した放課後の時間（6時間授業日課で 15:15 下校）を利用し、研修係が企画したマナカフェなどを中心に、「多様な子どもへの学びの保証」等について研鑽を深めてきました。特に 10 月末に開催した岩川直樹先生（埼玉大学教育学部教授）来校時に企画した対話型の研修会では、日々の悩みや思いを開示する先生方と、その語りを包み込むように受け入れる先生方の姿に、温かな同僚性と多様性を受容する学校づくりの一端を見ることができました（詳しくは WEB ページ 10/28 参照）。2 年目を迎える今年は「多様性を受容には、それぞれの子どもがやってみたいこと・挑戦したいことの実現を支援することが大切では」と考え、子どもだけでなく先生方も「まずやってみよう」を合言葉に日々の実践に取り組んでいます。

★ まずやってみよう 挑戦しよう！ 自主的な職員研修

今年度は放課後の時間を利用し、自主的な職員研修を開催しています。7 月中旬の日報に「15:30 から Kahoot!（自由に問題が作成でき、クラスのみんで早押しクイズを楽しめる）の研修をやります。誰か一人でも来れば開催します」という案内が掲載されると、放課後 10 数名の先生方が集まり、タブレット端末を子どもたちが楽しんで使うやり方を学び合いました。12 月末には、冬休みを利用し「園の先生方が保育を実施される姿から、園児への支援の仕方・言葉のかけ方や環境設定のあり方などを学び、日々の実践に生かそう」と考え、有志による保育園参観を計画しています。



★ やってみたいこと・学びたいことの実現「自由進度学習」

波田小では、子どもたちが「自分のペースで自分の学びたい場所で学習を深める」ことができるように昨年度から自由進度学習に取り組んでいます。6 年の S 先生は、負担が少ない自由進度学習を目指し、教科書の問題をノートに解きながら進めることを基本に、9 月末「立体の体積（6 時間）」で自由進度学習を実践しました。「プリントは最小限にし、4 種類の基礎的な内容のプリント・4 種類のチャレンジ問題を用意。教科書の問題の解答は、指導書をコピーし、欄外の『指導のポイント』も子どもが読めるようにする」などの工夫をしました。さらに、S 先生は、11 月中旬に社会科の歴史分野でも自由進度学習に挑戦しようと、「江戸時代」の単元で実施しました。S 先生のこの姿に学ぼうと研究主任の K 先生も参観に訪れました。プリントは小單元ごと作成し、子どもたちの興味・関心が高まるように NHK「歴史にドッキリ 徳川家光編（10 分）」などの QR コードを付け、自由に視聴できるようにしました。子どもたちは、自由進度学習のよさを次のように話しています。



・自分のペースで進められて、わからない所をすぐに調べられていいなと思う。普通の授業より、自分のわからないことや知りたいことを教科書や資料集をじっくり見て、もっと深められるところがいい。
・めっちゃくちゃ早く進めて後から復習したり、じっくり進めたりすることもできる。自分の思い（廊下だと教室より静かで集中できる）とか体調（廊下は教室より涼しい）に合った所でできるのがいい。

★ 波田小ならではの「輝き」を目指して

2 年生全体で算数の自由進度学習に取り組んでいる研究主任の K 先生。パイオニア校の視察で軽井沢風越学園のアウトプットデーに参加し、衝撃を受け、その思いを波田小の先生方に伝えたいとまとめ、11 月末の職員会で発表しました。12 月半ばには自主研修を実施しさらに詳しく発表します。K 先生は話されます。

「風越学園に行く前は、自分なりに言い訳をつかって『風越だからできるんでしょう』と思っていました。しかし実際に行ってみて波田小の子どもたちとそんなに変わらない子どもたち。ただどの子どもたちも輝いている。変わらないけど輝いている。ありのままの子どもたちを受け入れること、子どもたちの『やりたい』に耳を傾ける努力をすることで、波田小ならではの「輝き」が創れるのではないかと思います。」

波田小ならではの「輝き」を求めて、さらなるシンカが楽しみです。